

## インフォシス BPM、IBM の協力を得て 最先端の AI・自動化センターをポーランドに設立

ウッチ (ポーランド)、バンガロール (インド) – 2022 年 11 月 14 日: [インフォシス](#) (NSE、BSE、NYSE: INFY) の業務プロセス管理部門である [インフォシス BPM](#) は、本日、IBM との協働により、卓越したデジタル体験を世界各地の企業に提供する AI・自動化センターを、ポーランドのインフォシス・ビジネス・エクスペリエンス・ラウンジに開設しました。この発表は 2 年間におよぶインフォシス BPM と IBM の力強い協働関係に裏付けられたものであり、顧客の成功、新しいユースケースの確立、ソリューションの構築を図り、顧客のハイブリッド・クラウド環境にイノベーションをもたらすものです。

IBM と協働で設立された同センターでは、グローバル企業のハイブリッド・クラウド・ジャーニーの自動化と高速化を目的とした、現在拡大中のデータおよび AI ソリューションのポートフォリオが紹介される予定です。同センターは、デザイン思考アプローチと、データおよび AI テクノロジーの深い領域専門知識により構築されるインフォシス BPM の提供サービスを補完する役割を担います。また、同センターの設立は、ポーランドにおけるインフォシス BPM の創立 15 周年を記念するものです。

包括的なソリューションのスイートに焦点を合わせる同エクスペリエンス・センターは、イノベーションの原動力にふさわしく、さまざまな専門領域や業界の複雑な業務プロセスの課題に、大規模に対処することを可能にしています。同センターでは、業務プロセスの AI および自動化ソリューションをご紹介します。自動化などを通じて、これらのソリューションによりコスト削減とお客様体験の向上を実現します。

エンド・ツー・エンドの自動化機能と、その裏付けとなる信頼性の高いデータとインサイトにより、ワークフローの分析、ローコード・ツールによる AI 導入アプリの設計、ボットへのタスクの割当てが強化され、パフォーマンスは常時追跡されます。顧客がハンズオン・アクセスできるようになるさまざまなデジタル・ソリューション・サービスには、データ、AI に加え、IBM CloudPak for Data、IBM Watson Assistant & IBM Watson Discovery、IBM SaferPayments、IBM

Blockchain、IBM Sterling Supply Chain、IBM リスクおよび不正検知ソフトウェア、および持続可能性の Envizi などのハイパー・オートメーション、並びにインフォシス・インテリジェント文書処理、インフォシス・インタラクション分析、インフォシス多言語対話型 AI、インフォシス買掛金 on Cloud、Infosys Coretex、インフォシス・材料マスター・ハーモナイゼーション、およびインフォシス・データ・ワークベンチをはじめとする多彩なインフォシス BPM の主要ソリューションが含まれます。

**IBM ポーランドおよびバルト諸国のカントリー・ゼネラル・マネージャーの Marcin Gajdziński 氏**は次のように述べています。「IBM は顧客とインフォシスをはじめとする重要なパートナーに対し、AI を業務にスケーリングするために必要な鍵となる能力を提供することに注力しています。IBM のエコシステム戦略の重要性の証左として、今回ポーランドのウッチに新たに開設される AI センターは、IBM Watson が持つ力を活用し、デジタルエコノミー、並びに AI およびハイブリッド・クラウド領域の新しいスキルや体験を構築する両社の顧客の皆様へ、意味のあるサポートを提供してまいります。」

**インフォシス BPM のエグゼクティブ・バイスプレジデント兼セールスおよび企業ケイパビリティ担当グローバル責任者の Kapil Jain** は次のように述べています。「ポーランドの当社ビジネス・エクスペリエンス・ラウンジに、AI および自動化センターを開設することを誇りに思います。組織がクラウド環境を変革し続ける中、極めて高い生産性、敏捷性、規模を達成するために、多様性に富んだパートナーを備えるエコシステムの力を借りてテクノロジーに対応する必要が、ますます高まっています。今回の IBM Watson との協働で、エンド・ツー・エンドのハイブリッド・クラウドサービスを通じて、強靱な AI 機能、専門領域に特化したユースケース、業務機能のコンテキスト化により、組織はデジタル変革の複雑さによりよく対応できるようになります。これはビジネスの価値強化につながるものです。」

### インフォシス BPM について

インフォシス BPM リミテッドは、インフォシス リミテッド (NYSE: INFY) の完全所有子会社であり、2002 年 4 月に創設されました。当社は統合されたエンド・ツー・エンドの、変革に対応する BPM サービスを提供し、ステークホルダーの体験と共感性の強化にいつそう焦点を合わせ、これまでに有効性と効率性に求められる経験を蓄積してきました。14 か国におよぶ 35 のデリバリーセンターと、125 か国の出身者からなる 5 万 6700 名以上の人材とともに、デジタル・ジャーニーを推進するお客様を支援します。

インフォシス BPM が次のステージへと進む企業を支援する方法については、[www.infosysbpm.com](http://www.infosysbpm.com) をご覧ください。

## インフォシスについて

インフォシスは次世代デジタル・サービスとコンサルティングのグローバル・リーダーとして、30 万人以上の従業員とともに、人間の可能性を高め、人・ビジネス・コミュニティの次の機会を創造するために活動しています。40 年以上にわたるグローバル企業のシステム・業務管理の実績に基づき、専門家として、50 か国以上のお客様のクラウド活用によるデジタル変革への道のりを推進します。当社は AI 駆動型コアを利用してお客様の変革を実現し、大規模なデジタル・アジャイルでビジネスに力を与え、常に学ぶ姿勢で、デジタル・スキルの移転を通じてお客様の継続的改善を推進しています。インクルーシブな職場で多様な人材が活躍する、効果的に統率された、環境面で持続可能な組織であることに全力を注いでいます。

インフォシス (NSE、BSE、NYSE: INFY) が次のステージへと進む企業を支援する方法については、[www.infosys.com](http://www.infosys.com) をご覧ください。

## セーフハーバー条項

本リリースに掲載されている報告書の一部は、1995 年私募証券訴訟改革法の「セーフハーバー」条項の適用を意図した当社の将来的な成長と今後の配当、財務的期待、当社の従業員、顧客およびステークホルダーへの COVID-19 の影響を管理するための計画を予測するものであり、そこには多くのリスクや不確定要素が介在しているため、実績と大きく異なる場合があります。このようなリスクおよび不確定要素としては、COVID-19 に関連するリスクと不安定要素、その拡散を抑制するための政府およびその他の対策の効果、インド、米国、世界のその他の国々の景気低迷や不況に関連するリスク、政治、ビジネスおよび経済環境の変化、収益や外国為替相場の変動、当社の成長管理能力、費用効率に影響する可能性のある IT サービス分野における競争の激化、インドにおける人件費の高騰、高い技能をもつ専門的な人材を確保する当社の能力、固定価格・固定時間による契約における時間や経費の超過、顧客の集中化、出入国制限、業界セグメントの集中化、国際業務を管理する当社の能力、当社の主力分野であるテクノロジーの需要低下、通信ネットワークの崩壊あるいはシステムの故障、企業買収を成功させる当社の能力、当社サービス契約に対する損害賠償責任、戦略投資した企業の業績、政府援助の打ち切り、政治不安および地域紛争、インド国外での増資・企業買収に対する法的制限、当社知的所有権の不正使用、この業界に影響を与える経済情勢などが考えられます。将来の営業業績に影響すると考えられるその他リスクについては、2021 年会計年度年次報告書 (Form 20-F) を含め、米国証券取引委員会へ提出された当社報告書に詳細に記載されています。これらの報告書は、[www.sec.gov](http://www.sec.gov) でご覧いただけます。当社は、米国証券取引委員会および株主への報告書内の情報を含め、書面または口頭で将来の展望を随時発表する場合がありますが、法律により義務付けられている場合を除き、随時発表する将来の展望について更新する義務を負わないものとします。

## メディア関係のお問い合わせ先:

インフォシス 東京オフィス

マーケティング本部長 安藤 [jo\\_ando@infosys.com](mailto:jo_ando@infosys.com)